

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書6章43-49節＞

1 分かりやすそうで、分かりにくい内容。 前後関係に注目。

一見、実、木、家、土台など具体的なものが出て来る話なので分かりやすそうですが、むしろ、読めば読むほど一体何を言おうとしているのか分かりにくく、自分の読みたいように読み込んでしまいやすい話です。こういう時は、その箇所前後とのつながりを考えてみるのが大事です。ルカ福音書の場合は特にそうです。すると見えて来ます。

2 心の中がすべての根源。その土台を据え変える！

直前の箇所ではイエス様は、わが身を振り返らない偽善者(42)がどうして他人に注意できようか、と言われました(37-42)。それで、その次に(43-45)、まず、人の語ることは心の中にあるもので決まるのだから、心の中を変えねばならないことを暗に述べられ、その後(46-49)、そのためには「わたし(イエス・キリスト)の言葉を聞き、行う」(47)生き方に土台を置き換えることが大事なのだと語られている(46-49)、そういうことが見えて来るのです。これがルカが伝えようとしていることです。

3 どうしてキリストに聞き行うことがそんなに確かだと言えるのか？

しかし、この見出しのような疑問を持つ人もいるでしょう。その答えは今日の箇所には出ていません。聖書全体から示されて来ることです。宗教改革者のカルヴァンも、この個所の注解の中で、一見唐突に、「自分自身を否定するほど深く掘らない者はすべて、人間精神の虚栄や不安定に従って、砂の上に立てているからである」と語っています。自分の罪(神に背を向けて生きていたこと)が神の御子キリストの死によって赦されたことを知ることが重要であり、そのことを知った時に、人は自分の土台を自分自身の中ではなくこの御子の中に深く掘り下げて据えようとするのだ、とカルヴァンは語っているのです。同時に、キリストを信じさえすればいいのではなく、その教えに従って生きることが大事なこともここで言われています(ヤコブ2:18も)。その具体的内容が敵を愛し(27-36)、人を裁かず赦すこと(37-38)であり、舌を制し(ヤコブ3:1-12)、誇り高ぶらない(ヤコブ4:13-17)といったことなのです。